

鶴岡市地域コミュニティ推進計画策定に係る 意見交換会WSの内容報告

- ▶ 1 日 時 9月13日（金） 18:00～20:00
- ▶ 2 場 所 市役所別棟2号館 21・22・23会議室
- ▶ 3 参加者
 - (1)鶴岡地域の広域コミュニティ組織の会長・事務局長 8人
 - (2)鶴岡地域の単位自治組織代表者(町内会連合会三役 3人
 - (3)藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域の
広域コミュニティ組織、単位自治組織の代表者 10人
 - (4)鶴岡地域の女性町内会長 1人
 - (5) 高校生 3人

※4～5人ずつのグループに分かれて、意見交換を実施。

★テーマ1R①★ コミュニティ・暮らし

○鶴岡市の住んでいて良いところ

→ここが魅力、誇れるところ、暮らしやすいところなど

例) 人が優しい、尊敬できる人がいる、

町内会に季節ごとの行事がある

ピンク

○鶴岡市の住んでいて困っているところ

→ここが不便、こういうものがあるとよいなど

例) 隣の家が遠い、空き家がある、除雪が大変

青色

★テーマ1R②★

○コミュニティ・暮らしでこうあってほしいこと、
大事にしていきたいこと

例) 近所づきあいが大切

1人暮らしの高齢者の見守り

町内の祭りを盛り上げたいので他地域との交流が必要

町内会の回覧が大変なのでデジタルが必要

黄色

第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る意見交換会WS

R6.9.13 A班
佐藤豊、土岐純一、
石塚正子、
高橋俊一、生田政喜

テーマ 地域コミュニティ・暮らしについて

自然景観

- ◎景観が良い（月山、鳥海山）①
- ◎自然が豊か② ◎四季がある
- ◎海、山が近くに！
- ◎山が近く自然が多すぎる。動物も多い
- ▲地域の景観悪化（草・樹木）

衣食住

- ◎食べ物美味しい②
- ◎おいしい果物が次々と①
- ◎衣食住に恵まれている①
- ◎長らく住んでいて当たり前なので、困ったことがない

暮らし

- ◎日帰り温泉が多い① ◎KCTがある
- ◎スーパー、病院、市役所等が近い
- ▲ゴミの出し方、分別を守らない人がいる②
- ▲銀座通りがさみしい② ▲買い物が不便
- ▲大型商業施設がSモールしかない②
- ▲除雪の仕方が下手

高齢者（見守り）

- ◎毎月1回の寄合いが
- ◎高齢者が多いので
- ◎高齢者行事をうまく企
- ▲街中は民生委員を引き受
- ◆一人暮らし高齢者の見守りに工夫が必要
- ◆高齢者の見守り体制の充実①
- ◆高齢者が増えてきている、民生委員を減らすべきではない
- ◆高齢者が多すぎてヤクルト訪問が追い付かない所もある

災害

- ▲水害が多い（近年） ▲鳥獣被害がある
- ▲雪崩発生が時々あり、困る
- ◆災害対応で防災訓練 ◆災害時の消防団重要→維持を②
- ◆高齢者だけの災害対策のイメージ訓練要

空家

- ◎郊外地は土地が安い
- ◎転出で空き家になったがすぐ売れた（市街地）
- ▲空き家の解体が増えた① ▲空き家が増えている①

市への要望

- ▲鶴岡独自の施策がない。少子高齢化はどこも同じ
- ▲郊外に目を向けないので限界集落が増える①
- ▲郊外を見捨てるのは良くない、市街地中心

町内会あれこれ（人の流出、担い手不足、交流など）

- ◎近所付き合いある
- ▲若い人の流出③ ▲子どもが少ない② ▲町役員の成り手不足①
- ▲街中は人が多いが、郊外は中央に流出（人材みも流出）
- ▲若い人達が少なく高齢者の負担が多い（自治会事など、労力的に）
- ▲共同作業が嫌で若い人が出ていく（負担多い）①
- ▲若年齢と高齢者の意見、考えに間がある（隔たりがある）
- ◆町単位での行事が大変！学区単位、コミセン中心に！
- ◆年配は繋がりがあがるが若い方は希薄。交流の仕方に工夫が必要①
- ◆人付き合いの考えが違うので交わり方に苦労している

町内会費

- ▲郊外は町内会費が高い（40戸：年間3万円）
- ◆町内会費の継続見直しで負担軽減 ・集金の口座引き落とし

回覧・配付

- ◆回覧・デジタルはまだ難しいので、紙で配布して欲しい①
- ◆回覧板、対面で届けることも大切①

交通

- ▲公共交通が不便。移動手段、
- ▲トンネル（3本）は良く
があり、不便を感じる

伝統

- ◎地域の伝統行事を大切にしている（能など、若者も参加する）

第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る意見交換会WS

テーマ 地域コミュニティ・暮らしについて

R6.9.13 B班
伊藤吉樹、小野寺茂、
萬年義憲、
井上恵美子、工藤愛夏

自然・食べ物

- ◎山・海 自然の恵みが沢山①
- ◎食べ物が美味しい ◎のどか
- ◎お酒も美味しい
- ◆自然を使ったイベント
- ◆超目玉の観光スポット発掘

交通

- ▲交通が不便①
- ◆高齢者の移動支援、充実する①
- ◆市内循環バスが増えたが、他地域も①
- ◆病院経由で行ける公共交通
- ◆交通が便利に

▲遊ぶ所が少ない▲店が少ない▲街灯が少ない▲暗い

イベント

- ◎イベントが多い ▲イベント情報が少ない ◆SNSで情報をとりやすく

文化

挨拶・人柄

- ◎挨拶、元気に① ◎人柄が温かい ◎挨拶が活発 ◎親切な心
- ◎ご近所助け合い ◎近所の人優しい ◎困っている人がいたら助ける

交流の場

- ◆保護者や子どもが集まる施策 ◆子どもを地域で見守る（育てる）
- ◆子どもや若者、集いの場の充実◆サロン等の交流の場への高齢者、加入増

行事

- ◎町内会行事への子ども会が積極的に参加
- ◎行事を全員で全力でやる ◎幅広い行事が多い
- ◎町内会の行事に理解を示す ◎“コミュニティ”という意識を持っている
- ▲町内行事への高齢者の参加が減 ◆他の町内会、団体等を事業→コラボ
- ◆地域行事、若者が主体 ◆古き良き時代を大切に、新しい取り組み

◆幅広い年齢からの事業への参加

◆子ども達のボランティア 参加

人口の減少

- ▲少子化（子どもが少ない）▲少子高齢化① ▲若者の流出（特に女子）
- ▲若者、子ども少ない

◆働く場の拡大、充実①

- ◆少ない若者を大事にする
- ◆若者が鶴岡を好きと思う施策

防災

- ◆防災機材の充実 ◆他学区との防災訓練 ◆防災意識の高揚

高齢者

- ◆高齢者が住みやすい町 ◆高齢者同士の繋がり ◆高齢者の見守り

学校との連携

- ◎学校行事と連携
- ◆小・中・高 →ここで地域とどう関わるか
- ◆学校と地域の交流促進の施策

◆学校が地域と関わるきっかけに

雪

- ▲除雪、雪下ろし大変 ▲道幅が狭い
- ◆除雪の助け合い ◆雪の活用が出来れば

空き家

- ◎空き家の活用
- ▲空き家対策が進まない ▲空き家が年々増加
- ◆空き家が少なくなる
- ◆空き家を交流スペースに

役員の担い手

- ▲地域
- ▲役員の
- ▲隣組の持ち回り（してくれない）
- ▲町内会役員
- ▲「再雇用」高齢者も働く→（担い手不足）
- ▲役員持ちまわり

役員の負担

- ▲役員の人が大
- ◆回覧部配付物が多く大変→改善策
- ◆役員の負担軽減、デジタル活用

町内会費

- ▲町内会費減
- ▲高齢者世帯の町内会費が安い→この世帯が増えると収入減る

デジタル化

- ◆町内会でのデジタル化はまだ早い
- ◆SNS、デジタルは高齢者はわからない→改善策

第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る意見交換会WS

R6.9.13 C班
石井真澄、齋藤邦夫、
丸山三喜男、三浦悠詩

テーマ 地域コミュニティ・暮らしについて

人

- ◎やさしい人が多い①
- ◎おすそ分けを自由にできる
- ◎人の愛情が強く感じる
- ◎やさしい、世話焼き
- ◎会話が深い
- ◆町内＝家族
- ◆若年層と高齢者層、互いに知る機会
- ◆家族のお付き合いを大切に



人

- ▲となりの方を知らない
- ▲会話が浅い
- ◆挨拶を元気よく実施する
- ◆人と人との繋がりを作る②
- ◆災害時は助け合い③
- ◆近所の人々の事を思う心①

生活

- ▲独身が多い（特に男性）① ▲空き家②
- ▲一人暮らしが増えている
- ▲子どもが少ない②
- ▲結婚した後、家から出ていく人が多い
- ▲若者が流出している①
- ▲子どもを産む医院が少なくなった
- ▲少子高齢化④
- ◆高齢者の方に配慮したデジタル政策②

情報・PR

- ◎フルーツがたくさん①
- ◎食べ物がおいしい②
- ◎魚・海のものがおいしい②
- ◎食材が豊富③
- ◆地域のアピールを増やす①
- ◆情報はどんどん発信してほしい

地域行事・つながり

- ◎地域ごとに行事があり、つながりが強い
- ▲計画しても参加してくれない
- ◆地域のレクリエーション実施②
- ◆町内会に参加してほしい②
- ◆日帰り旅行を（高齢者向け）
- ◆コロナ前の行事の再開②
- ◆形を変えた行事をしていきたい
- ◆子ども達に伝統芸能を教える事①
- ◆地区で防災訓練（年1回）
- ◆市民歌に踊りを考えたい

除雪

- ◎除雪を助け合いで行う

困りごと

- ▲開業医が混んでる

第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る意見交換会WS

テーマ 地域コミュニティ・暮らしについて

R6.9.13 D班
佐藤 健、高橋治郎、
五十嵐幸夫、櫻井修治

自然

- ◎山、平野、川、海、田畑が魅力①
- ◎自然が豊か①
- ◎山形県一ヶ所
↓
ラムサール条約
(大山上池・下池)
大山公園
↓
庄内平野見事！！

美味しい食

- ◎くだもの①
- ◎特産品が多い

誇れる歴史文化

- ◎歴史、文化、祭②
- ◎郷土芸能
黒川能
- ◎伝統行事の継続
- ◎4つの酒蔵あり

良さの継続

- ◎交流（酒飲み）が多い（越沢内）
- ◎仲良し
- ◎少し減少だが
↓
三世代家族

交通不便

- ▲交通の便①
- ▲公共交通に問題あり

人口減、空き家

- ▲空き家増②
- ▲人口減①
↓
大きな問題

雪

- ▲除排雪②

- ▲遊ぶところ（若者）

- ▲役員のなり手不足②

- ▲町内会費が高い

- ▲ごみの分別が複雑①

鳥獣被害

- ▲イノシシ出現

- ▲都市部と郊外地の差①

町内会同志の情報交流がない

- ▲自治会間の情報交流、交流の場がない
- ◆町内会同志の交流（防災面）

コミュニティ、暮らしで大事にしていきたいこと

- ◆隣組制度、近所づきあい② ◆まとまりのある町内会役員の在り方
- ◆ケーブルテレビのような地域間情報伝達① ◆1人暮らしの人々の見守り ◆気軽にかけられる交通機関
- ◆買い物難民の解消① ◆気軽にかいものタノマレル
- ◆楽しく行う ◆センター内WiFiネット ◆町内行事→参加者増加、子供会・青年部 ある程度まかせて自信もたせる
- ◆青年層との交流①

第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る意見交換会WS

テーマ 地域コミュニティ・暮らしについて

R.9.13 E班
佐藤祥子、阿部貴一、
三浦幸太郎、五十嵐収一
小野寺雄司、佐藤心海

食

- ◎うまい食べ物が多い
- ◎美味しい食物が多い
- ◎ごはんが美味しい① ◎何でもうまい
- ◆庄内の食べ物をずっと残してほしい
- ▲店の後継者がいない

人とのつながり・コミュニティ

- ◆自治会活動に参加しやすい組織づくり ◎地域でのコミュニケーションがよくとれている ◎あたたかい人
- ◎自治会のまとまりが良い ◎近所の仲が良い ◆世代を越えた挨拶、コミュニケーション ◆仲良く
- ◆助け合って生活していける地域でいたい ◆お嫁さんが来て欲しい ◆複数の自治会による事業の企画
- ◆遠地のコミュニティと交流したい ◎知人が多い ◎人とのつながりがとても良い
- ◎安心して暮らせる（災害少、犯罪無） ◆地域の中の深いつながり ◆世代間の交流① ◆地区の夏祭り①
- ▲役員のなり手不足

知名度を
あげる

歴史・文化

- ◆参加してほしい
- ◆地域の伝統行事がなくならないようにしていきたい①
- ◎伝統文化が引き継がれている
- ◆鶴岡市各地域の歴史を残せる支援を増やす（建物とか）
- ◆地域、文化を理解①
- ◆伝統を守る

環境

- ◎山がある ◎海がある ◎田がある ◆福祉活動への取り組み
- ◎雪質がよい（スキー） ◎道がせまい ◎自然が豊か ◆きれいな自然を守る
- ◆もう宅地造成しないで ◆古い家壊さないで ◎山がある ◎海がある
- ◎観光地（みるところ）がいっぱいある ▲1人暮らし、2人暮らしの高齢者世帯
- ▲空き家が多くなってきた ◆今以上に空き家を持っている人の支援が必要①
- ▲道が混む ▲草が多い ▲ゴミが多い ▲隣の家が近すぎる
- ▲温海では開業医が減っている ◆医療支援 ◆どこでもWiFi
- ▲施設が狭い ▲道が狭い ▲若者向けの施設が少ない ▲交通手段が少ない、高い
- ▲交通が不便（特に郊外） ▲買い物が一週間に一度の旅行 ◆幹線道路 ◆ライドシェア
- ◆企業の責任 アパート ゴミ捨て

若者支援

- ▲若い人がいない▲若者が少ない
- ◆若い世代へのサポート支援①
※進学のことなど、地元への就職のこと
- ◆都会に出た若い人が戻ってこられる支援をたくさんつ
- ▲勉強するところが
- ▲バスの最終が
- ▲遊ぶところ
- ▲若者が
利と

テーマ	項目	内容	グループ
◎ 良い所	自然環境	景観が良い	A
◎ 良い所	衣食住	おいしい果物が次々と	A
◎ 良い所	衣食住	衣食住に恵まれている	A
◎ 良い所	暮らし	日帰り温泉が多い	A
◎ 良い所	自然・食べ物	山・海 自然の恵みが沢山	B
◎ 良い所	挨拶・人柄	挨拶、元気に	B
◎ 良い所	人	やさしい人が多い	C
◎ 良い所	人	近所の人々の事を思う心	C
◎ 良い所	情報・PR	フルーツがたくさん	C
◎ 良い所	自然	山、平野、川、海、田畑が魅力	D
◎ 良い所	自然	自然が豊か	D
◎ 良い所	美味しい食	くだもの	D
◎ 良い所	食	ごはんが美味しい	E
◎ 良い所	自然環境	自然が豊か	A
◎ 良い所	衣食住	食べ物が美味しい	A
◎ 良い所	情報・PR	食べ物がおいしい	C
◎ 良い所	情報・PR	魚・海のものがおいしい	C
◎ 良い所	誇れる歴史・文化	歴史、文化、祭り	D
◎ 良い所	情報・PR	食材が豊富	C

テーマ	項目	内容	グループ
▲困っている所	町内会あれこれ	共同作業が嫌で若い人がでていく	A
▲困っている所	町内会あれこれ	町役員のなり手不足	A
▲困っている所	空き家	空き家の解体が増えた	A
▲困っている所	空き家	空き家が増えている	A
▲困っている所	市への要望	郊外に目を向けないので限界集落が増える	A
▲困っている所	交通	交通が不便	B
▲困っている所	人口の減少	少子高齢化	B
▲困っている所	生活	独身が多い(特に男性)	C
▲困っている所	生活	若者が流出している	C
▲困っている所	生活	少子高齢化	C
▲困っている所	人口減・空き家	人口減	D
▲困っている所		都市部と郊外地の差	D
▲困っている所		ごみの分別が複雑	D
▲困っている所	暮らし	ゴミの出し方、分別を守らない人がいる	A
▲困っている所	暮らし	銀座通りがさみしい	A
▲困っている所	暮らし	大型商業施設がsモールしかない	A
▲困っている所	町内会あれこれ	子どもが少ない	A
▲困っている所	交通	公共交通が不便。移動手段、運転できない	A
▲困っている所	生活	子どもが少ない	C
▲困っている所	生活	空き家増	C
▲困っている所	人口減・空き家	空き家増	D
▲困っている所	雪	除排雪	D
▲困っている所		役員のなり手不足	D
▲困っている所	町内会あれこれ	若い人の流出	A

テーマ	項目	内容	グループ
◆大事にしていきたいこと	町内会あれこれ	年配は繋がりがあがるが若い方は希薄。交流の仕方に工夫が必要。	A
◆大事にしていきたいこと	高齢者（見守り）	高齢者の見守り体制の充実。	A
◆大事にしていきたいこと	回覧・配布	回覧板、デジタルはまだ難しいので、紙で配布してほしい。	A
◆大事にしていきたいこと	回覧・配布	回覧板を対面で届けることも大切。	A
◆大事にしていきたいこと	交通	高齢者の移動支援、充実する	B
◆大事にしていきたいこと	交通	市内循環バスが増えたが、他地域も	B
◆大事にしていきたいこと		働く場の拡大、充実	B
◆大事にしていきたいこと	情報・PR	地域のアピールを増やす	C
◆大事にしていきたいこと	地域行事・つながり	子ども達に伝統芸能を教える事	C
◆大事にしていきたいこと	大事にしていきたいこと	ケーブルテレビのような地域間情報伝達	D
◆大事にしていきたいこと	大事にしていきたいこと	買物難民の解消	D
◆大事にしていきたいこと	大事にしていきたいこと	青年層との交流	D
◆大事にしていきたいこと	コミュニティ	世代間の交流	E
◆大事にしていきたいこと	コミュニティ	地区の夏祭り	E
◆大事にしていきたいこと	歴史・文化	地域の伝統行事がなくならないようにしていきたい	E
◆大事にしていきたいこと	歴史・文化	地域、文化を理解	E
◆大事にしていきたいこと	環境	今以上に空き家を持っている人の支援が必要	E
◆大事にしていきたいこと	人	人と人との繋がりを作る	C
◆大事にしていきたいこと	地域行事・つながり	地域のリクレーション実施	C
◆大事にしていきたいこと	地域行事・つながり	町内会に参加してほしい	C
◆大事にしていきたいこと	地域行事・つながり	コロナ前の行事の再開	C
◆大事にしていきたいこと	大事にしていきたいこと	隣組制度、近所づきあい	D
◆大事にしていきたいこと	若者支援	都会に出た若い人が戻ってこれる支援をたくさんつくる	E
◆大事にしていきたいこと	人	災害時は助け合い	C

【担当者所感】

- ・意見交換会WSでは、B班にあったように「ご近所助け合い」、E班にあったように「自治会のまとまりがよい」、「人とのつながりがよい、」という意見もあるが、
A班にあるように「若年層と高齢者の意見、考えに隔たりある」、「年配はつながりがあるが、若い方は希薄、交流の仕方に工夫が必要」、との意見も出た。
- ・また、B班にあるように「デジタル活用を必要」とする意見もあるが、
A班にあるように「デジタルはまだ難しいので紙で配布してほしい」という意見もある。
- ・地域コミュニティの中には、子どもから高齢者まで幅広い世代方が揃っているので交流の仕方とか、歩みより方とか様々な手段を考えていくことも必要でないかと思われる。

令和 6 年度第 2 回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会
グループ討議について（案）

○項 目

①テーマ 1「10 年後どんな地域コミュニティになっていたいか。また、目指すべきか。」

10 年前、市民が安全・安心にそして明るく生き生きと心豊かな生活を送ることを考え、鶴岡市地域コミュニティ基本方針を策定しました。資料 3のように基本理念・目指すコミュニティ像を掲げましたが、10 年経過し、若年層、現役世代、高齢者間でコミュニティ意識の違いが生じています。状況が変化していく中、10 年後のどんな地域コミュニティを目指すべきか、話し合います。

②テーマ 2「10 年後目指す地域コミュニティを達成するために誰がどんな役割を担えばよいか。」

参考資料①②でこれまでの話し合い内容、期待される取組みを整理しました。10 年後の基本理念・目指すコミュニティ像を考えた時に、その地域コミュニティを達成するために誰がどんな役割を担えばよいか、テーマ 1 の内容や参考資料の内容を受けて話し合います。

【グループ討議流れ】

1 グループ、委員 3～4 人、支援する事務局員の構成で、3 グループを編成し、次の工程で進めます。最初にグループ討議について事務局より説明します。

※テーブルファシリ、グラフィッカーを各 1 名ずつテーブルに配置。

分	工 程	備 考
①「10 年後どんな地域コミュニティになっていたいか。また、目指すべきか。」		
5	①個人ワーク／①についての課題・現状等も踏まえながら、一件ずつ付せんに書き込む。	
19	②グループワーク／ ・付せんを説明して共有する。一人 2 分目安。 ・付せんをグルーピングして、それぞれに区分名を表示する。	説明は、付せんを大判用紙に貼りだしながら行う。
6 計 30	③発表 @3 分×2 グループ ※4 人でまとめたものの中から重要な項目を 4 つ報告する。 事務局はホワイトボードに記入する。	発表者は各グループから代表して委員 1 名が行う。
5	休憩	
②「10 年後目指す地域コミュニティを達成するために誰がどんな役割を担えばよいか。」		
5	①個人ワーク／各自で、②についてテーマ①の内容も踏まえながら考えて付せんに書き込む	
19	②グループワーク／ ・付せんを説明して共有する。一人 2 分目安。 ・付せんをグルーピングしたのち、解決策を検討する課題を選ぶ。	説明は、付せんを大判用紙に貼りだしながら行う。
6 計 30	③発表 @3 分×2 グループ ※4 人でまとめたものの中から重要な項目を 4 つ報告する。 事務局はホワイトボードに記入する。	発表者は各グループから代表して委員 1 名が行う。
総括 武田委員長		

地域コミュニティづくりの理念 (鶴岡市地域コミュニティ基本方針より抜粋)

現在の日本社会は、国全体の人口が減少に転じるとともに、世界が経験したことのない高齢社会に突入しました。加えて、政治経済の混迷が続き、明るい展望が描きにくい社会になっています。

市民が、安全・安心に、そして明るく生き生きと心豊かな生活を送るためには、今改めて、人と人との繋がりを見つめ直し、地域コミュニティの再構築に取り組む必要があります。

《基本理念》

市民がまちづくりの主役として、個性あふれ豊かさを実感できる
地域社会を築く地域コミュニティの構築

《目指すコミュニティ像》

- 笑顔であいさつを交わす心の通った地域コミュニティ
- より良い地域環境を築くため、
皆が力を合わせる地域コミュニティ
- 地域課題の解決に向け、
住民が主体的に取り組む確かな地域コミュニティ
- 地域ごとの異なる文化や歴史を尊重し、
個性あふれる地域コミュニティ

参考資料1

鶴岡市地域コミュニティ基本方針・コミュニティ基本計画検討経過

※鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会
令和5年度第2回、令和6年度第1回
グループ協議の内容をまとめたもの

第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ1 地域コミュニティが果たしている役割

R6.3.13 A班 劔持委員、加藤委員、鈴木委員、遠藤委員

具体的取り組み

- ・夏祭、文化祭、スポーツ大会
- ・伝統行事・子ども老人交流
- ・今地域でやっている事業
(強制はしていない)

意義

- ・「役割」があるという意義、喜び、出会い、機会、生きがい、存在価値
- ・世代を超えた関わり合いがあり、他人事ではないあたたかなつながり
- ・地域コミュニティ活動を通じて得る経験の貴重さ
- ・「自分の地域を大切にしない奴は信用できない」至言
- ・仲間が住んでいる所、仲間と時間をすごせるところ

市の問題

- ・地域が求めているミスマッチ
- ・行政が求めているもの（ズレ）
- ・地域が必要としているもの
- ・コミュニティではなく行政側の在り方に問題
- ・市が表すテーマが抽象的でよくわからない

役割

- ・役割→生きがい 友達、家族を超えたつながり
になっている
- ・伝統、文化の継承 ・課題解決の中心的存在
- ・行政に組み込まれているので自分のために役割を果たす（ゴミ。配布物）・住民とのつながり役
- ・住民への幸せ、楽しみの提供
- ・住民の安全・安心な暮らしのサポート
- ・問題が起きた時（熊がでた、雪が大変）一人で無理なことを解決する役割
- ・活動を通じて今まで知り得なかったことを経験できた

課題

- ・市として何をめざしているのが見えないことも不活性の原因
- ・住民へのアプローチ不足（紙多し）デジタル移行
- ・市として小さい地域は消えて行くことを示すことも必要
- ・今、お金を求めているのではなく「人」を求めている（助けてくれる人）
- ・移住者のフロー不足
- ・ミニマリーが何をやっているか不明 ・行政用語が抽象的→それが嫌われる理由
- ・新参者にとっては「となりは何をやる人ぞ」という感覚
- ・未来事業予算400万円しか使っていない→求めているのはお金でなく人
- ・課題が見える化、詳細化されていない
- ・何のためにイベントをしているのか「見える化」不足
- ・学区と地区では抱える課題が異なる ・学区の約6万人と地区の課題のギャップ

第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ1 地域コミュニティが果たしている役割

R6.3.13 B班 高橋委員、田村委員、市川委員、阿部委員

守り

共 助

- ・ 共助 助け合い ・ 自助 ・ 公助 ・ 共助
- ・ 共同 ・ 共助のかかわりが大切

防 犯

- ・ 近所同士、顔見知りであいさつをするという軽い関係のつながりが地域の「壁に耳、しようじに目」状態を作る
- ・ 行政が介入しづらい事への対応※不審者など
- ・ 住環境の保全...草刈り

攻め

世代間交流ギャップ

- ・ 価値観のちがいはあるもの、年代、性別ごとに分けてみる
- ・ 世代間の価値観のギャップを埋める事←対話が大切
- ・ 行事等を通じた世代間交流 ・ ホタル祭 (世代間交流)

行 事

- ・ 夏祭や地域のイベントに子供たちが参加することで地域の愛着の形成 (醸成) につながる
- ・ 伝統文化の継承
- ・ レクレーション等で地域の人と触れ合う
- ・ コロナ禍で変化した懇親、親睦の会のスタイル

人の関係性

- ・ よりよい人間関係の構築を果たしてきた

見守り

- ・ 高齢者の病気や (特に一人暮らし) 異変に気づきやすい ※ 最近みかけない、認知症? など
- ・ 一人ぐらしのひととの交流、見守り
- ・ 隣近所どうしの見守り、声がけ

地域の方向性、ビジョン、組織運営

- ・ 「まち」の方向性を決める事
- ・ コミュニティの必要性を問われれば大いに必要である。共助など地域共同体として組織を取りまとめた事多大な成果を上げた
- ・ 人口減少、少子高齢化社会、空家問題等全国規模的諸問題克服 (解決) 出来なかった事と器量のなさ
- ・ コミュニティの責任者として意見の相違等を取りまとめた。一応なりにリーダーシップをとってきた

課 題

- ・ 事業への若年層の参加率の向上課題
- ・ コミュニティ活動の後継者不足 (高齢化)
- ・ 我関せずの意識改革が必要

第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ1 地域コミュニティが果たしている役割

R6.3.13 C班 菅原委員、太谷委員、減遣委員

コミュニティの役割

- ・地域生活のルールづくり
- ・行政からの情報伝達
- ・生活課題の解決
- ・災害時の助け合い
- ・困りごとの解決
- ・子ども、高齢者の見守り

・地域の美化

行事・イベント・事業

- ・子どもを巻き込んだイベント、行事をする事によって父兄の参加が多くなるのでは
- ・季節の行事 ・交流できる場所と機会づくりができるようにしている
- ・高齢者の集まりを大事にしたい。予算をつけたりして支援することなどで参加者が増える
- ・趣味やサークル ・敬老会：集落単位参加しやすいが学年で会えない
- ・羽黒・櫛引の敬老会 → 広域単位 ・行事への参加：潜在的には要望大 どう引込むか
- ・他所から来た人の評判良かった ・外国人 発想の違い
- ・他の団体で行われている同じような未来創造ミーティングに参加すると面白い。新たな発見がある
- ・地域の美化
- ・夏祭り再開 100人（前） → 300人（後）

コロナの影響

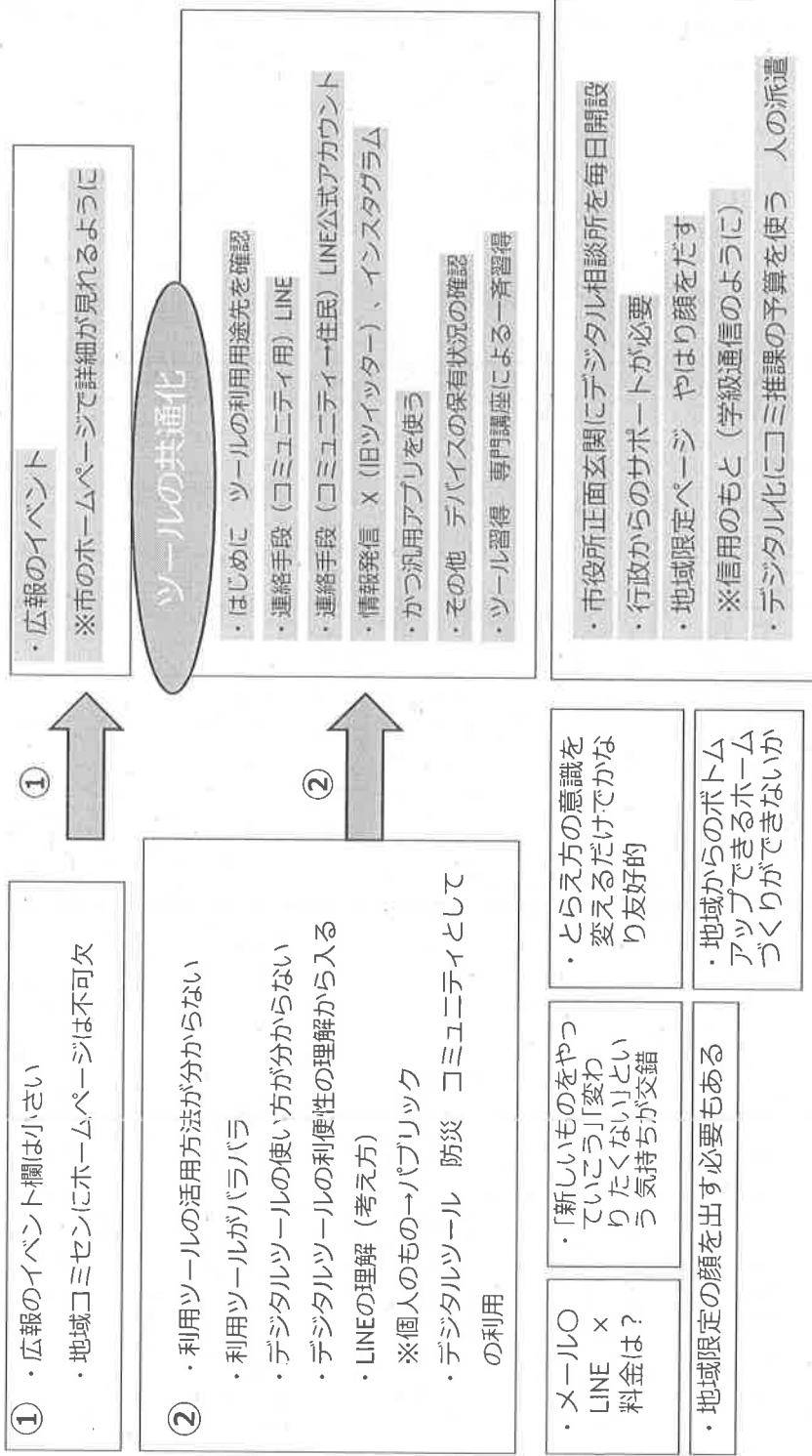
- ・コロナに慣れてしまった ・加入率 若者とその上の世代との違い
- ・葬儀も簡素化している 家族葬 持ち帰り
- ・コロナにより大人数で集まる機会が減り、交流できる機会も減った
- ・コロナが明けてきても数年間何も出来なかった期間があり、参加する気持ちもなくなってしまった
- ・活動等の棚おろしができた ・懇親会の減。やっても残らない、帰る
- ・夏祭り再開 100人（前） → 300人（後）

・集落・地域をみても高齢化している。若い人が少ない

第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ2 デジタルによる地域コミュニティの活性化 R6.3.13 A班 鈿持委員、加藤委員、鈴木委員、遠藤委員
課題 解決策

【注釈】
課題：黒字
解決策：網掛文字



第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ2 デジタルによる地域コミュニティの活性化 R6.3.13 B班 高橋委員、田村委員、市川委員、阿部委員

【注 釈】
課 題：黒字
解決策：網掛文字

現状 デジタル化した方がよいこと

回 覧 回覧板（紙）をまわす事の手間	集 金 ・ 集金する事の手間 小学校・中学校の賛助会費集めに行っても家にいない。 PayPay 送金などデジタル化してほしい ・ PayPay 送金機能（情報流出がこわい）
会費の連絡	・ 小学生の保護者は諸会合連絡にLINEを活用している（自治振関係） ・ 自治組織でのデジタル化の導入されている事に驚きを感じた 総会の案内をメールで知らせる（告知など）リモートの集金 ・ 集会をリモート開催に ・ LINE、電子メール...等の活用
イベント	・ ぼっぼの湯フォトコンテストはQRコードを使用している オンライン応募をしている
災 害	・ 災害時の即戦力、安否確認 ←ぜひデジタル化をしてほしい

デジタル化の懸念点

高齢者がスマホやデジタルに慣れていない ・ 事業の参加者は比較的高齢者が多いがスマホを持ってない人もいる ・ 高齢者への配慮 デジタルのコミュニティとそうじゃないコミュニティの両立 ・ スマホ教室	安全性 ・ 集金の簡素化（会費） データ漏れが危惧される
関わり方の変化 ・ デジタル化によって「ライト」な関り方が選べるようになった ・ 関わり方の多様化 ・ 障害のある方→デジタルによってコミュニティにかかわりやすく	効率化 ・ 代表者専用の携帯を準備されている。情報の効率化が図られている ・ ペーパーレス化 ・ デジタル化→役員の省力化

デジタル化してよかった・よいこと

第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ2 デジタルによる地域コミュニティの活性化 R6.3.13 C班 菅原委員、太谷委員、渡邊委員

【注 釈】

課題：黒字

解決策：網掛文字

便利・可能性

- ・連絡の簡素化
- ・災害時の安否確認
- ・閲覧板のデジタル化 → できるとすごくいい
- ・消防・防災情報はよい
- ・電話できなくてもメッセージはできる

・過渡期二重
三重の周知方
法となってい
る

利用状況

- ・興味はあるものは見るが...
- ・今利用しているのはフェイスブック、LINE、メッセージ、他アマゾン...
- ・フェイスブック、インスタグラムの活用イベント情報をのせている
- フェイスブック反応 若い人は見る お年寄りは見ない
- ・発信も慣れないと難しい
- ・若い人見る人が多いが一定年令になると見ると見ない
- 電話もらう
- ・現状 フェイスブック 若い人いなくなっている
- ・忙しいと出すのを忘れてしまう（スムーズにできない）

課題

- ・便利なのは十分かる。でもすべてを理解するのは難しい
- ・年代の若い役員 LINE活用
- ・役員の年代がまだ高い面もある
- ・高齢者への対応
- ・デジタル化の進展によるコミュニケーション不足
- ・携帯ないから役員になれない、と断られる
- ・携帯持ちたくない人もいる

【解決へ向けて】

- ・手間はぶけていている部分はある
- ・講習会 使い方に慣れる やってみてはどうか
- ・講習会 コミセン単位でやっている
- ・慣れる必要性
- ・限定して覚えてもらう
- ・デジタル時代になっている
- ・五つ六つ教えられてもちよっと厳しい。少しずつがいい
- ・デジタルを使いこなせないことが新たな利用となる

令和6年度第1回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会
グループ討議

【テーマ1女性や現役世代が参加しやすい環境づくり】

グループA

- ① 声掛け。
- ② 引っ張りこむ。
- ③ 子どもと一緒に参加からの役員への声掛け（母親世代）。
- ④ 参加しやすい事業などきっかけ作り。
- ⑤ やってみて後に続ける。
- ⑥ 年功序列をなくす・成功例に学ぶ（越沢そばなど）。
- ⑦ 自分の能力で活かされれば「やる気」になる。
- ⑧ 募集をする（具体的な役割、内容をしっかり示す。SNSの活用）。
- ⑨ 見える化（具体的な役割、例えばカレンダーづくり）。
- ⑩ 否定しない。
- ⑪ おもしろいこと（SNSで募集）をする!!遊びも必要（ホタル狩りなど）。
- ⑫ 年代にかかわらず、アイデアの募集。
- ⑬ 施策の柔軟化。

【テーマ1女性や現役世代が参加しやすい環境づくり】

グループB

- ① 女性、若者のイベント役割つける。
- ② 総代会、出席。
- ③ コロナ→色々なことが省略化、簡素化。
- ④ 楽しみ。
- ⑤ 季節のごとの行事、イベント。
- ⑥ 助成金（やる気のあるところに。健康教室とか、束縛は✕）。
- ⑦ 女性の枠を作る（女性限定の会）。
- ⑧ 女性が参加しやすい時間帯一日中帯に集まる。
- ⑨ 子どもも一緒、OKにする。
- ⑩ 年齢で区切る（JCのように40歳以下など。
若い人同士の方が気軽・話しやすい）。
- ⑪ 友達の紹介（友達を集まりに誘う）。
- ⑫ 飲食できる楽しさ、魅力ある集まり
（弁当・お菓子・ケーキ・アルコール・コーヒーなど）

【テーマ1女性や現役世代が参加しやすい環境づくり】

グループC

- ① 会議が夜間になる場合、終了時間明記する。←反面、夜間だと女性が出席しづらい。
- ② 年金受給開始年齢がV上がり。参加年齢も高くなる。若手不足。
- ③ 子ども会で終了。
- ④ 女性の団体が無くなっている。
- ⑤ 世帯主が代表で出る←具体的に誰か、息子か嫁か。そのままの声かけだと若手・女性が出づらい。
- ⑥ 会議の終了時間を明確にしたらどうか！
- ⑦ 歴史・文化的なものが根づいている。
- ⑧ 飲みニケーション若者喜ばない。
- ⑨ 現役世代夜や休日でなければ参加できない。
- ⑩ 休みはスポ少の送り迎え。
- ⑪ 地域性。
- ⑫ 若い人の意見→否定される→話せなくなる。
- ⑬ 女性家から出づらい、家事などしなければならない。

【テーマ2 課題解決に取り組むための新しい連携の在り方】

グループA

- ① 企業・商店・会社との連携。
- ② 地域の特技のある人を発見！紹介→イベントに繋げる。
- ③ 中学校・高校・大学との連携、学生を評価する（高校の探究学習の発表する）。
- ④ 都会と繋がる（旅行社との連携）。
- ⑤ 外国人と繋がる（神輿を担ぐなど、SNS発信を通して）。
- ⑥ ユーチューバーと繋がる。
- ⑦ 国際村チームと連携。
- ⑧ JA、SEADSとの連携。
- ⑨ 地域企業を活用した住民の参加。
- ⑩ 情報共有。
- ⑪ 隣合う町内会との協力。

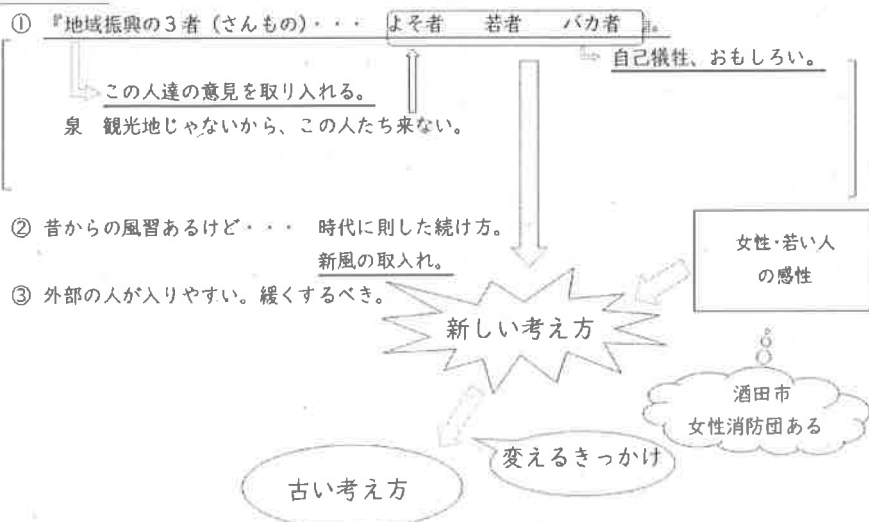
【テーマ2 課題解決に取り組むための新しい連携の在り方】

グループB

- ① 福祉部門（ボランティア）－社会福祉協議会。
- ② 町内会草刈り・アメシロー業者に依頼（役員負担軽減）。
- ③ 高齢化で色々できなくなってきた－行政から委託があっても誰もやる人がいない。
- ④ 自治会内LINEグループ－災害。
- ⑤ 文化財取組み方－小・中学校との連携、郷土愛。
- ⑥ 一人暮らしごみ出し－近所・隣組⇒自治会で取組み。
- ⑦ 自治会同士、町内会同士の連携

【テーマ2 課題解決に取り組むための新しい連携の在り方】

グループ C



④ 自分達の地域 = 他の地域

↑
自分達だけだとままたまらない = 合同でやる・・合併まで行かずとも協力し合う

↓
統合

行政からのトップダウンではダメ
自分達で機運を高めるボトムアップ。

得意なことをやれる

⑤ 中央高校（福祉）、山大（花笠サークル）からの協力

↳ 各町のサロン、会食サービス、認知症サポーター養成講座

⑥ 地域包括支援センター

↳ ぽっぽの湯を会場に『認知症カフェ』（終活の講座 → 悩みの共有）。

↓
地域資源の有効活用

⑦ 行政（仲介役）から声掛けがあれば助かる

「こんなことで困ってるなんよの～」→『ここに相談してみてはどうだ？』

⑧ 町内会単位ではできないことを広域単位（コミセン）で実施

↳ 増加している（草刈り）。

公園管理避難所

⑨ 夏まつり → キッチンカー 大人気

運動会の反省会

町内女性の手作り → 業者の仕出し。

⑩ 隣集落、得意な人から役員になってもらう。

期待される取組み

(ふり返しシート、グループ討議の内容、意見交換会の内容から取組みの内容を見直したもの)

(1) 単位自治組織

― 望まれる取組みや機能 ―

①組織体制・運営の見直し

- ・ 行事、会議、組織の棚卸しを図る
- ・ 役員負担を軽減する
- ・ 組織の役員、行事の中に女性の枠をつくる
- ・ 活動方針や具体的な取組みを明示する
- ・ 広報紙を作成し、活動を周知する
- ・ 会費の見直しを継続的に行う
- ・ 組織の実態に応じた「無理のない」運営を実現する
- ・ 総会資料などの作り方を工夫する
- ・ 総会等の案内をメールで知らせる
- ・ 総会、会議等の終了時間を明記する
- ・ 自治会同士、町内会同志の連携をする

②人材の活用と育成

- ・ 「役割」があるという意義を見出し、喜び、出会い、機会、生きがい、存在価値をつくる
- ・ 地域コミュニティ活動を通じて得る経験の貴重さを学んでもらう
- ・ 子供会や青年部にある程度まかせて自信もたせる
- ・ 多くの世代との交流の仕方を工夫する
- ・ 子供を巻き込んだイベント等を行うことによって、父兄の参加の増加を図る
- ・ 女性、若者のイベントをつくる
- ・ 年代、性別を超えて尊重し合い、年功序列をなくす、
- ・ 年代に関わらず、アイデアを募集する
- ・ 他地域の成功事例に学ぶ
- ・ 外部の人（よそ者、若者、バカ者）を入りやすくする

③「話し合い」の場の創出

- ・ 情報を共有するための話し合いの機会をつくる
- ・ 実質的な話し合いの機会をつくる
- ・ 事業内容に反映される話し合いの場づくりを行う
- ・ 地域の伝統行事がなくならないように話し合う
- ・ 「ここで暮らしたい」と思える郷土愛を育む地域活動を実践する
- ・ 否定されない話し合いの場をつくる
- ・ 幅広い世代が各々の意見や考えを持ちより、話し合う
- ・ 年代・性別を越えて、お互いに尊重し合い、世代間ギャップを埋める
- ・ デジタルと従来型のコミュニティを両立する
- ・ スマホを持っていない高齢者でも関わりやすくする
- ・ 障害のある方でもデジタルによってコミュニティに関わりやすくする
- ・ 現役世代や子育て世代でもデジタル化によってライトな関り方が選べるようにする
- ・ (飲食できる) 楽しさ、魅力ある集まりをする

④あいさつを交わし顔の見える地域づくり

- ・ 地域づくりの基礎となるコミュニケーションを促進する
- ・ 世代を超えた関合いを大切にし、他人事ではないあたたかなつながりを持つ
- ・ コミュニティという意識を持つ
- ・ 新しく住民になった人でも気軽に参加できる機会を提供する
- ・ 仲間づくりや参加者の拡大を図るための「声かけ」を実践する
- ・ 近所の人々の事を思いやる心の育成を図る

⑤小規模な単位自治組織のあり方の検討

- ・ 単位自治組織の統合または協力体制、交流等の促進
- ・ 統合までいかずとも話し合い、他の地域と連携する

(2) 広域コミュニティ組織

①持続可能な組織づくり

- ・ 地域内の各種団体等と連携強化し、参加者の輪を広げる
- ・ 行事、会議、組織の棚卸しを図る
- ・ 役員負担を軽減をする
- ・ デジタルツールを積極的に用いて利便性を図る
- ・ デジタル化の推進によりコミュニケーション不足を解消する
- ・ デジタル化によってライトな関り方が選べるようにする

②地域住民の活動拠点

- ・ 生涯学習事業をはじめ、福祉、防災、地域づくり活動を展開する
- ・ 地域住民の居場所となるような自然な交流を促す
- ・ 地区内の単位自治組織や、各種団体、人材等を活用し、課題解決に向けた取組みをする
- ・ 障害のある方もデジタルによってコミュニティに関わりやすくする
- ・ デジタルのコミュニティと従来型のコミュニティを両立する

③地域課題解決に向けた取組み

- ・ 地域内の様々な関係主体が参加して現状を把握し、課題を共有する
- ・ 地域課題を整理し取組みに反映するための地域ビジョンをつくる
- ・ 地区内で活動を行うサークルや団体の設立を支援する
- ・ 住民の活動の場を広げるコーディネート機能の発揮する
- ・ 交流できる場所と機会づくりができる活動を展開する
- ・ 相乗効果を生み出す掛け算で事業企画をする
- ・ 中学校、高校、大学、NPO、企業等と連携・交流を図る
- ・ コミュニティビジネスの導入について検討する

④単位自治組織との連携

- ・ 小規模単位自治組織等の機能を補完する
- ・ 単独の単位自治組織では取組みが難しいことを広域コミュニティ組織で実施する

(3) 市の地域コミュニティ施策

①住民主体による地域課題解決を多面的に支援

- ・住民自治組織総合交付金や広域コミュニティ組織運営・地域づくり交付金交付し、地域づくりや地域課題の解決に向けた取組等の支援をする
- ・地域ビジョンの策定を通して、地域づくり・人づくりが進められるように支援する
- ・地域が行うワークショップやアンケート等の取組を支援し、地域の現状や課題に気づき、共有する場づくりを推進する
- ・アドバイザー職員等を配置して、地域課題の解決や地域ビジョンの策定など地域住民の主体的な地域づくりを支援する

②コミュニティ意識の醸成と担い手の育成促進

- ・世代間交流や青少年対象の事業などの地域の魅力や地域コミュニティの大切さを次世代に伝える取組みを支援する
- ・地域住民の参画によるコミュニティスクールの導入及び地域学校協働本部の立ち上げの支援をする
- ・転入者等に対して住民自治組織への加入の呼びかけを行う

③広域コミュニティ組織の強化

- ・広域コミュニティ組織と単位自治組織が地域内連携を図り、事例紹介や研修会の開催などの支援をする
- ・コミセンの貸館業務の省力化を図るなど職員の負担を軽減する

④小規模な単位自治組織への支援

- ・住民自治組織総合交付金を交付し、小規模な単位自治組織の運営を支援する
- ・住民理解を深める話し合いの場づくりや事例紹介、相談対応などの支援をする

⑤安全・安心な暮らしの確保に向けた地域体制づくり

- ・生活支援コーディネーターを配置し、生活支援、介護予防サービス等の仕組みづくりを支援する
- ・子どもを犯罪や事故から守るために登下校時の見守り活動等の取組みを推進する
- ・地域防災計画や避難行動要支援者支援計画に基づき、地域の住民同士で助け合い、支え合う

⑥生涯学習活動を通じた地域づくりの推進

- ・生涯学習推進員を配置し、市民の多様な学習・交流活動を支援する
- ・誰もが参加しやすい事業等、地域づくり事業の企画、実践に向け、事例集を作成する

⑦住民自治組織と行政の連携強化

- ・住民自治組織にかかる負担軽減を図るため、行政からの依頼事項の洗い出しを行う

鶴岡市には、町内会や自治会など463の単位自治組織と、33の広域コミュニティ組織（コミュニティ振興会、自治振興会等）があり、地域のまちづくりの活動主体として取り組んでいます。

市では、持続可能な組織づくりや担い手の育成促進を重点課題として「第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画」を策定し、市民の皆様、住民自治組織、関係機関・団体と力を合わせて、安全・安心で、明るく心豊かに暮らせるように取り組んでいます。

この「まち活通信」では、地域のコミュニティで取り組まれている活動の工夫や独自の取り組みを紹介しております。今回は、子供に対する記念事業、学校と連携した防災の取り組み、地域資源を活かした地域づくり、関係団体と連携した地域づくり事業の取り組みについて紹介します。

- 紹介する団体
- 1.新形西町内会
 - 2.由良自治会
 - 3.越沢自治会
 - 4.長沼地区自治振興会

鶴岡地域

単位自治組織

地域の大人だけではない 記念事業を

新形西町内会 会長 伊藤 博



新形西町内会は、城下町鶴岡の城址北部に位置する閑静な住宅街にあります。

元々は、新形町内会で東、中、西と分かれていましたが、昭和46年に新形東公園ができたのを機に「西部ブロック」といわれていた地域の機運が高まり、新形西町内会として昭和48年7月に設立されました。町内会では、安全安心で快適な生活を守るために環境整備事業や、夏祭り・芋煮会など住民相互の親睦を図る事業を行っています。

令和5年は、町内会設立50周年の節目にあたり、町内会の設立や組織づくり、事業の振興に努めた先人達の足跡をふり返ることなどを目的に、50周年記念式典並びに祝賀会を実施しました。

自分のふるさとを知る「親子学習会」の実施

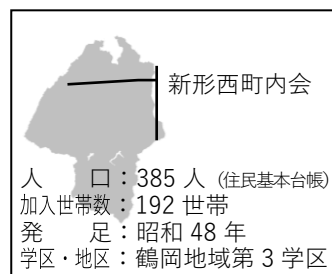
50周年記念事業として式典、祝賀会が企画されていましたが、参加者は役員など地域の一部の大人のみに限られていました。もっと地域のみんなに寄り添った記念事業を行えないかという植松芳平氏（町内会名誉顧問）の提案もあり、親子を対象とした「町の歴史親子学習会」を実施しました。

町広報で周知を図り、小学1～6年生を含む親子が20人ぐらい集まりました。自由研究の題材にすることも考え、参加した子供達もいるようでした。

学習会の資料は、図書館やインターネットで調べながら作成し、地理、歴史、クイズ、新形町ができた昭和40年代の流行も載せた盛りだくさんの内容です。

自分達の住む地域の成り立ちや当時の流行を知ることができる資料であったため、親世代も共有できる話題も多く、皆で盛り上がることができました。

自分のふるさとを知るということは、他の人を大切に思う気持ちに繋がります。誰にも生まれ育ったふるさとがあることに容易に思い至ることができるからです。自分が生まれ育ったり、暮らしたりした町のことを少しでも知っておくことは、いつかどこかで人生の何かの糧になると信じてこの事業を企画しました。



町の歴史親子学習会の様子

地元の学校と連携した津波に強い地域づくり

由良自治会 事務局長 佐藤 一彦



由良地区は鶴岡市海岸部のほぼ中央に位置し、東北の江ノ島とも称される白山島を擁し、「日本の渚百選」と「海水浴場百選」に選ばれた由良海岸、蜂子皇子と八乙女伝説の奇石・八乙女浦等、バリエーションに富む恵まれた自然景観を有しています。コミュニティセンターを拠点として住民相互の連携と融和並びに自主活動の推進を図っており、地域の美化運動（花植）、由良ふるさとかるたを活用した青少年事業、体育・レクリエーション・交流事業である太鼓教室などを実施しています。また、令和2年7月から住民アンケートやワークショップを重ね、令和4年5月に地域ビジョン「ゆら未来予想図」を策定しました。

避難路が暗く不安があった

山形県沖地震を契機として自主防災組織の重要性が再認識されてきた中、由良地区でも自主防災組織を中心に関係団体と連携してきました。避難行動カルテの検証・課題整理を実施したり、避難路、案内表示板の点検、防災資機材の購入及び点検など、地域防災力向上のための取組みを進めています。しかしながら、由良地区は高齢者が多い地域であるため、津波を想定した避難訓練では階段の段差が大きく、また避難路が暗いこともあり、夜間の災害発生時の避難には不安がありました。

鶴岡の協力で避難路に照明器具を整備

令和元年、由良自治会に防災の視点からアドバイスをもらっていた山形大学地域教育文化学部講師である熊谷誠先生の勧めで、由良自治会、鶴岡工業高等学校の共同による「津波に強い地域づくり」の一つとして避難路に照明器具を整備するプロジェクトが始まりました。鶴岡工業高等学校電気電子科3年生の課題研究として実施することになったのです。

令和4年から実証実験が始まり、2年目には避

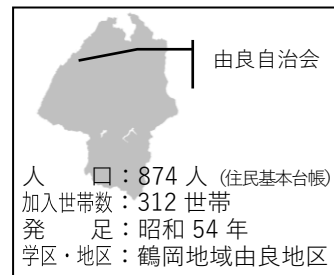
難路の登り口（最も下の部分）に太陽光パネルを使用した照明器具の取付けを行いました。ただ、樹々が生い茂り、日差しが取込みにくい場所であ

ったため、発電環境が悪く避難路の暗さは解消されませんでした。3年目、登り口にあった照明器具をより避難路の上の部分に付け直し、照明器具の個数を増やして機能を強化しました。設置された照明器具は手作りで「自治会でも簡単に交換できる」ことをポイントにした単純な構造になっています。人感センサーはついておらず、太陽光パネルで充電し暗くなると給電が行われ、照明器具に電気がつきます。様々な部品を組み合わせた照明器具は、市販の照明器具のおよそ10分の1の費用で作られていました。

安全で迅速な避難を目指して

取付けを行ったのは、電気電子科3年生の4人と指導している梅津一弘先生です。先輩達から受け継いできた活動であり、これからも地域に貢献したいという気持ちにあふれていました。

鶴岡工業高等学校の取組みによって、避難路が明るくなり地域の安心・安全につなげることができました。夜間避難時に足元を照らすだけでも避難時の不安を減らすことができます。今後は、設置場所を増やせるように鶴岡工業高等学校と連携し、生徒達の協力を仰ぐとともに、手すり等がない山際の避難路も照らしていけるよう協議を重ね、安全で迅速な避難が可能となるよう進めて参りたいと思います。



今年度取付けを行った鶴岡工業高等学校電気電子科3年生と梅津先生

おいでよ！そばに 棚田と清水、 摩耶の里・越沢

越沢自治会 会長 伊藤 治



越沢集落は鶴岡市中心市街地から約 30 km離れた山間部にあり、名勝「摩耶山」をはじめ里の名水やまがた百選の「郷清水」、やまがたの棚田 20 選の「越沢の棚田」など豊かな自然に恵まれ、美味しいお米や在来作物の「越沢三角そば」、笹巻、山菜、キノコなど自然の恵みを活かした食文化が受け継がれています。

令和 5 年度「豊かなむらづくり全国表彰」において在来作物「越沢三角そば」を核とした取り組みにより、農業の生産力向上、担い手の育成、次世代へ継承、地域内外との交流創出など、大きな成果をあげて、内閣総理大臣賞・農林水産大臣賞受賞感謝の会を開催し、多くの皆様に感謝の気持ちを伝えることができました。



内閣総理大臣賞・農林水産大臣賞受賞感謝の会

越沢の将来を考える～自分達のビジョン策定～

そんな越沢にも危機がありました。

少子高齢化による人口減少や転出者が目立ち始め、いつしか集落の存続に住民が危機感を抱くようになりました。このことをきっかけに平成 28 年、当時配属されていた地域おこし協力隊を含めた住民有志 20 名で「越沢自治会活性化委員会」を立ち上げ、ビジョン策定に着手しました。手始めに中学生以上の全住民にアンケートを行い、越沢の将来について話し合いを重ねました。そして平成 29 年 3 月に「越沢活性化ビジョン」が完成しました。

ビジョンでは、

- ①暮らしの不安解消（高齢世帯の除雪支え合い等）
- ②魅力みがきと賑わい創出（景観・環境整備、情報発信等）
- ③特産物のブランド化・販路拡大（越沢三角そば、

笹巻、まやのやかた、イベント等）

- ④伝統の技と知恵の伝承（そば打ち、笹巻、獅子舞や越沢音頭等）
- ⑤郷土愛と生きがいく

り（世代間交流等）

- ⑥持続可能な地域運営体制づくり（組織の再編、リーダーの確保育成等）の 6 つの目標を決め、その年の状況に応じて取組みを検討しています。

人口減少や高齢化の課題に直面しながらも、安心して暮らせる魅力ある集落となるよう、楽しみながら取り組んでいます。

住民 1 人 1 人に出番を

住民の得意なこと、技術や知識を最大限発揮できる「出番づくり」を意識しています。例えば、越沢三角そばのそば打ちや笹巻づくりを伝承していくために、住民が講師となり講習会を行い勉強しています。

また、そば処「まやのやかた」では、集落内の女性を中心に輪番制で調理・配膳を行っており、女性ならではのアイデアを活かしながら協力して運営しています。

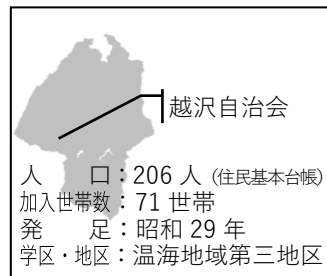
昨年の夏祭りでは、若者中心で企画・運営してもらったところ、若い世代の参加者が増え活気あるお祭りとなりました。

郷土愛と地域の絆をこれからも

越沢では昭和 26 年 7 月に大火があり、集落の 8 割以上が焼けました。先人たちは将来を見据えた考えのもと復興に尽力し、支え合い励まし合いながら辛抱強く苦難を乗り越えてきました。そんな中生まれた「越沢音頭」は、今も歌い踊り継がれています。郷土を愛する心と共助の精神が、越沢の確固たる絆を築いてきました。先人たちから受け継いだこの強みをこれからも大事にして、安心して生き生きと暮らし続けられる地域づくりを目指していきたいと思っています。

応援よろしくお願ひ
します！

毎年作っている
「越沢カレンダー」は全世帯に配布



地域の宝を守り 更なる飛躍へ

長沼地区自治振興会 会長 高橋 俊一



長沼地区に所在する昭和25年開湯の長沼温泉は、平成12年4月から第三セクターの経営に依る長沼温泉「ぽっぽの湯」に姿を変え、湯冷めのしない温まりの湯として評価を得、親しまれてきました。

ところが令和2年のコロナの感染拡大により、急激に入浴者数が減少し経営危機に陥ってしまいました。その結果、令和3年4月より、第三セクターの経営から地元関係団体で組織する「長沼温泉ぽっぽの湯運営協議会」が運営する形に移行しました。

地域の宝を守る為、自治振興会も協議会の一員となり、健康増進、集客事業を企画する立場となりました。地域の活性化を目的に発足した長沼活性化委員会でも、「ぽっぽの湯は長沼での宝あり、地域づくりの核として活用・連携して行くべき」との提言が度々出ておりました。

健康づくり事業の取組み

さっそく取組みの一步として、旧長沼小学校が平成30年の閉校までの23年間、全校挙げて取り組んで来た伝統の「けん玉」を取り入れた事業をスタート。毎月第2土曜日の15時～18時にロビーで「けん玉ふれあい体験コーナー」を開催。入浴来館者にけん玉に依る積み木遊びや、5連けん玉チャレンジで楽しんで貰い、成功者には景品を進呈しました。

また、第3土曜日には「健康けん玉教室」を開催し、初心者が健康づくりを第一目的にして、優しい技へ挑戦する場を提供しています。技能審査の時間も設け、自分の技能レベル向上の楽しさも味わって貰っています。

大きなイベントとしては、「ぽっぽの郷ウォーキング大会」を、令和3年より毎年10月下旬に開催しています。大会コンセプトは「家族や友人と、ゆっくり楽しく無理なく歩いて健康づくり」。長沼地

区に6kmのコースを設定し、名所を巡りながら途中6箇所の中継点でクイズやミニゲームにチャレンジして貰い、その結果で賞品を進呈。また、ゴール後には、ぽっぽ

の湯で芋煮の振舞いを行い、参加者の溢れる笑顔が実行委員の達成感になっています。毎年参加してくれるリピーターもあり、藤島地域に留まらず、周辺市町村からの参加者も見

受けられ、交流人口の拡大へと結びついています。

関わる人々の活力が重なり合って

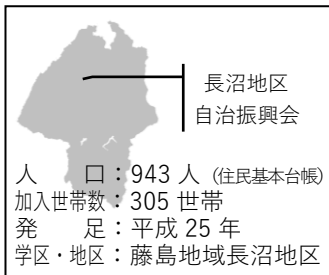
その他、自治振興会が主催・共催して行っているものとして、「わら工芸体験教室」、「ぽっぽの湯冬景色フォトコンテスト」、「長沼ゆったりカフェ(認知症カフェ)」、「デマンドタクシー利用の日帰り湯治プラン」があります。これら自治振興会の事業は、ぽっぽの湯全体の年間事業数からみれば、ほんの一部に過ぎません。

現在のぽっぽの湯は運営協議会の構成団体や、自治振興会、従業員、行政等それぞれの立ち位置や特色を生かし、様々な企画が具現化される様になってきました。企画検討に関わる人数が増えたことで、組織が新たな活力を生み、相乗効果が出ていると感じます。

地域の宝の更なる飛躍を目指して

コロナ禍でぽっぽの湯の入浴者数は、一度どん底まで落ちましたが、令和5年度にはコロナ禍前の水準に、もうひと頑張りと言える所まで戻りました。様々な取組みが一定の効果を上げてきたと言えます。

ぽっぽの湯は地域の宝と言う共通認識のもと、運営協議会の構成団体、関係者共々更なる振興策を、模索し協力して行かなければならないと感じています。



ぽっぽの郷ウォーキング大会

編集・発行／ 鶴岡市市民部コミュニティ推進課
〒997-8601 鶴岡市馬場町9-25
TEL：0235-35-1203
E-Mail：community@city.tsuruoka.yamagata.jp

藤島庁舎総務企画課 TEL 0235-64-2111
羽黒庁舎総務企画課 TEL 0235-62-2111
櫛引庁舎総務企画課 TEL 0235-57-2111
朝日庁舎総務企画課 TEL 0235-53-2113
温海庁舎総務企画課 TEL 0235-43-2111



まち活掲示板 HP